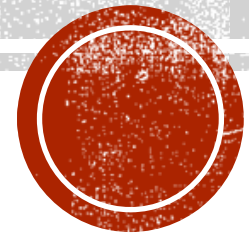


OCRテキスト横断検索システムへの期待と 今後の幕末維新史研究



東京大学史料編纂所

箱 石 大

◆日本史（幕末維新史）研究者としてのこれまでの経験から

→ 私の研究履歴。

- ・ 所属：東京大学史料編纂所
- ・ 史料編纂：『大日本維新史料 類纂之部 井伊家史料』
- ・ 研究テーマ：幕末期朝幕関係史、戊辰戦争、明治太政官文書…

→ 以下、話題提供。



◆かつての幕末維新政治史に関する史料の収集

- 研究テーマによっては未翻刻史料も多い。
- 幕末維新政治史研究のための史料は、活字化された史料も多い。政府刊行物（『[太政官日誌](#)』をはじめとする官版日誌・『[法令全書](#)』・『[法規分類大全](#)』など）、編纂史料集（『[大日本維新史料](#)』・[日本史籍協会叢書](#)など）、新聞・雑誌、伝記、その他。
- 明治維新に対する関心の高さが影響か。明治政府にとっては、遠い昔の歴史ではなく直近の出来事であり、ほぼ同時代史であった。



→ 従来の幕末維新政治史に関する研究史を形成してきた基本史料は、日本史籍協会叢書や、『孝明天皇紀』、『復古記』などの活字史料が中心。

→ 研究テーマに関係しそうな史料集を総めぐりすることによって、必要な材料を集めることから研究を開始。非常に時間が掛かる（一応、史料集の全体に目を通すことにはなったが…）。



→ さらに、[『維新史料綱要』](#)（全10巻）を参照して、東京大学史料編纂所所蔵の[『大日本維新史料』稿本](#)（文部省維新史料編纂事務局編・約4200冊）を閲覧することもできた。

→ 現在は、史料編纂所のホームページから公開している、[「維新史料綱要データベース」](#)を検索し、[『大日本維新史料』稿本](#)と[『復古記』刊本の画像](#)を閲覧・利用することができる。

<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w03/search>



◆大日本維新史料と日本史籍協会叢書

・文部省維新史料編纂事務局編『[大日本維新史料](#)』[稿本](#)（東京大学史料編纂所所蔵、約4200冊、墨書された原稿で一部を除き未刊行）

・[日本史籍協会叢書](#)（文部省維新史料編纂会の外郭団体である日本史籍協会が刊行した史料集、全192巻）

→ 戦後、続日本史籍協会叢書（東京大学出版会刊、全100巻）も刊行。



・ 日本史籍協会叢書について、「研究者ははじめにその危大さに驚いてしまい、応々にしてそれがどのような森かを見ることは出来ない」（原文ママ）

→ 刊行する史料集の選択、翻刻部分の取捨選択。政治的判断、特定の歴史観による規制の存在。

→ 「提供」された史料の土俵。

（宮地正人「政治と歴史学—明治期の維新史研究を手掛りとして—」西川正雄・小谷汪之編『現代歴史学入門』東京大学出版会、1987年）

→ それでも、こうした史料の「森」に分け入り、様々な制約を克服する努力を続けなければならない。



◆OCRテキスト横断検索システムへの期待

- ・現在でも刊行史料集の検索は、重要な史料情報収集の作業。そのうえで、未翻刻史料を利用したり、新たな史料の発掘にも努めたりしている。

- ・フルテキストデータベース／OCRテキスト横断検索システムの活用

→ 既知の刊行史料集から必要な史料情報（特定の語句など）を短時間で悉皆的に抽出することが比較的容易になった。研究の進め方においても画期的。



・活用の具体例

- 維新政府における文書行政、押印慣行について関心を持ち、研究開始。
- 中村覚氏開発の「幕末維新史料・横断検索システム」を利用し、例えば「**検印**」のキーワードで検索。
- 検索結果は48件（テキストでは「**検**」の字でヒット）。
画像のコマ番号ではなく、刊本の頁数が表示されるとなおよい。
既知の情報もあったが、今まで気づかなかった情報も得られた。

日本史籍協会叢書『岩倉具視関係文書 第七』

「…史官をして之を細録し大臣諸卿輔の官位氏名を書せしめ各之に押印し之を奏聞す而て制可を得れば大臣之を**検印**し以て之を制可の證とす…」



・要望事項

- 国立国会図書館デジタルコレクションのうち「ログインなしで閲覧可能」とされている資料以外の版面でも、テキスト検索だけは可能とし、ページなどの検索結果だけでも表示されるようにしたらどうか。
- くずし字のOCRテキスト化（筆者未詳史料の研究支援の可能性？）。
- アナログ世代（？）への対応。操作方法はなるべく簡単な方がよい。従来の方法に慣れている人たちが、新たな世界へどのように引っ張り込むかが課題か。広報・宣伝の必要性（2022年10月、明治維新史学会例会での中村覚報告）。



◆今後の幕末維新史研究

・研究基盤の整備はますます進む

- 現在、幕末維新政治史研究を行なう多くの研究者が、東京大学史料編纂所の「維新史料綱要データベース」（『大日本維新史料』稿本、『復古記』、『加賀藩史料 藩末編』、『改訂肥後藩国事史料』の綱文検索が可能）を利用しているか。ただし、検索対象は「綱文」のみ（現在、綱文の英訳プロジェクトが進行中）。
- これまでに史料の画像公開も飛躍的に進展。
- フルテキストDB化されていない刊行物でも、精度の高い悉皆的な史料情報収集が可能となれば、研究基盤の整備にさらなる貢献。



- ・新たな研究テーマを発見する可能性

→ OCRテキスト横断検索システムで、様々なキーワードによる検索を試してみることで、新たな史料情報や研究テーマの発見も期待できるか。

→ 教育的効果もあるか。

- ・注意点

→ 収集した膨大な史料情報をどのように処理・分析するか。新たな課題。

→ 検索システムだけに頼りすぎると、史料を通読しなくなる？（研究を取り巻く環境の変化、繁忙化）／史料の文脈などをどう読み取るか。

